



Subaru

男声合唱団

ニュース№485

'14. 11. 26



「日本のうたごえ祭典INみやぎ」

大祭典 5,400 名で開催！！

11月22～24日

□「日本のうたごえ祭典 in みやぎ」は「被災地の復興を希(ねが)って今伝えたいこと、そして『感謝と連帯』」のメッセージのもと、全国からうたごえの仲間も集まり、23日の「ゼビオアリーナ仙台」での大音楽会は、5,400名の大祭典となりました。

地元の被災地宮城の人々が、東日本大震災から3年たった今、そして少しずつ前へ進もうとしている思いを数々の創作曲で歌い上げ、会場は大きな拍手に包まれました。また未だ大変危機的な状態にある原発のもとで、くらしといのちの不安の中で日々の暮らしをしている福島から100名以上の人たちが参加されました。”大切な一粒のこの命が原発に奪われてなるものか！“と、そのおもいを合唱構成「ふくしまに生きる」で歌い上げられ、会場の大きな支援の拍手が鳴りやみませんでした。



□昴のメンバーは9:00に会場の舞台でのゲネプロに参加。10:50から他の会場での練習、そして13:30から祭典会場と待機の別会場に集まり、17:00まえからの舞台に上がりました。満員の会場で「働く仲間たちの希い」の舞台で、「スクラムひろげて」「こころひとつに」を、「今あらためて命の尊さを」の舞台で「いのち」を、そして「地域サークル合同」の仲間たちと「私の好きなこの町」の計4曲を歌い響かせ、300名以上の舞台合唱となり、会場は盛り上がりました。

昴 熱唱！ 見事「銀賞」の栄誉に輝く！！

合唱発表会 一般の部(B) 11月22日

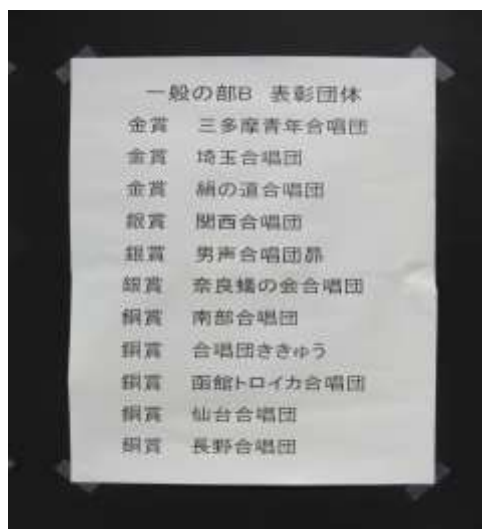
□22日と24日の2日にわたって、2つの会館、4つの会場で、数々の「合唱発表会」が催されました。22日は日立システムズホール仙台で、「一般の部B」昂を含めて36団体、「小編成の部」40団体、「オリジナルコンサート」関西紫金草合唱団（本並先生指揮・森二三さんピアノ）を含めて52団体、太白区文化センター楽楽楽ホールで「女性の部」30団体、24日は日立システムズホール仙台で、「一部の部A」奈良紫金草合唱団（本並先生指揮・森二三さんピアノ）とよの合唱団（本並先生指揮・山下和子さんピアノ）を含めて43団体、「交流の部I」49団体、「交流の部II」25団体、太白区文化センター楽楽楽ホールで「職場の部」40団体と、多くの合唱団が参加し、それぞれの合唱発表会で得意の曲を披露しました。



□昂は「降りつむ」「街を返せ」の2曲を、今年の総まとめであり、そして次の飛躍を期して、そのおもいをコンサートホールの舞台に響き渡らせました。（出演者全30名、本並先生指揮、近藤静さんピアノ。）この間、4月の昂第9回コンサート以来、7ヵ月に亘る本並先生の毎回のレッスンでの熱心な指導のもと、そして吉田亜矢子先生の3回にわたる特別レッスンを含めて、長い期間の集中したレッスンが続きました。発声の仕方、歌の情景を心に描いた表現の仕方等、1フレーズ毎にどのような声でどう表現し、声を合わせていくか・・・

心を込めて集中して歌った2曲。ピアノッシモノの心に沁みとおる声！そして昂らしい重厚な男声の響きと訴え！今までの思いを込めて歌い上げました。

結果、23日（日）の大祭典会場の入り口に入賞団体が掲示され、見事昂は銀賞に輝きました！これは2010年長崎での祭典で「ねがい」で銀賞を受賞して以来4年ぶりの快挙となりました。



□（追記）合唱発表会終了後、夕食会を兼ねてメンバーの交流会が開かれました。当日の合唱発表の手ごたえを一人一人が感じながら、乾杯！ 一人一人の思いを披露しあう夕食会となりました。

○“うまく歌う”ということと“心を込めた歌を聴衆に伝える”ということ。

○単に“うまい”だけでなく、“歌い手の心が相手に伝わる合唱とは？”

○“心を伝えたい”という意気込みだけでは、その“心”は伝わらない。技術的な裏打ち、優れた発声での男声の心の響き、“伝えたい気持ち”と“伝えうる技術的な発声”の両者があいまって優れた合唱ができるのでは？

○“昂らしい歌声とは何か？”“昂らしさとはなにか？”この原点をみんなで追求しながら歌い続けよう・・・

○一人一人の「健康管理の大切さ」について、若手メンバーの一人からメンバー全員に向けて真剣な訴えがありました。日常の生活での健康管理“飲みすぎない！食べ過ぎない！適度な運動を！・・・”歳は確実に1歳ずつ過ぎていく！それを自覚して日常の身体の摂生がこれからの昂の団活動の基本であることをお互い肝に銘じてやっていきましょう！耳の痛い、しかし大切な仲間からのアドバイス…と書いて記しました。（編集部）

日うた宮城祭典に参加して

BS 川妻成美

昂入団後わずか半年あまり、日うたに参加できたことだけで十分満足していたのに、いきなり銀賞獲得という結果に大感激。近年入賞を逃してきたくやしさを乗り越えて頑張ってきた皆さんが、結果発表の掲示を食い入るように見つめておられる姿に、よかったなあという思いでいっぱいになりました。

全国の上質な合唱団の演奏を聞き不安を感じながらも、昂は他にはない何かを持っているという確信めいたものが初心者である私なりにありましたし、それが評価されたということで大変うれしかったです。今後も技術的な向上を目指しつつもコンクールでの評価にかかわらず、昂の持ち味を生かした昂にしかできない合唱に自信を持ってこだわって行けたらと思っています。そのことはまさに今取り組みつつある10回コンサートのテーマに関わってくることであり、全員でさらに深めていくべき課題なのではないでしょうか。

大音楽会では特に被災地からの演奏に心を打たれ、またそれに呼応する全国からの支援の熱い思いが温かく胸に迫ってきました。うたごえのすばらしさは温かさであり人のつながりだと思います。大阪での練習の時から「心一つに」や「私の好きなこの町」の歌詞をかみしめながら歌っていると、こみ上げてくるものがあって歌うのに苦労しましたが、全国の皆さんとの合同合唱では被災地に全国にこの思いを伝えたいと思い、120パーセントの力を出して思い切りうたうことができ大満足（ちょっと怒鳴りすぎたかも！）、うたごえのすばらしさを実感することができました。日本のうたごえ宮城祭典は私にとってかつて経験したことのない感動的な2日間となったのです。

私のうたごえ人生一年目が思いがけず、このようにすばらしくまた華々しい形でスタートできたことを本当にうれしく思います。今回の感動をまた来年も味わうために、これからは自分が昂の合唱を少しでも支えられるよう、力をつけて行きたいと願っています。

（編集部）初めてうたごえ祭典に参加された川妻さんから早速貴重な感想文をいただきました。ありがとうございました。今回の祭典に参加された、また残念ながらご都合で参加できなかったメンバーの投稿を歓迎いたします。